

# 2015 年度湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

## HI シンポジウム 2015

慶應義塾大学総合政策学部 4 年 向山亜紗美

### 1. 活動日程・会場

平成 27 年 9 月 1 日～4 日に開催された北海道函館市公立ほこだて未来大学にて、ヒューマンインタフェース 2015 に参加した。

(<https://www.his.gr.jp/sympo/his2015.html>)

### 2. 活動の目的

自研究「なぜ人はネット弁慶になるのかーネットとリアルをつながり分析」について、「ヒューマンインタフェースシンポジウム 2015」にて発表を行った。本研究では、ネット上でのコミュニケーションは活発であるのにリアル上でのコミュニケーションがそれに比べ少ない人々を「内弁慶」の「内」がネット上、「外」がリアル上にあるという意味で「ネット弁慶」という言葉により定義し、このネット弁慶の特徴を探るため Twitter データの分析、アンケート調査を行っている。シンポジウムではこれらの調査結果について述べ、またこの結果より作成した、リアル上とネット上の差からネット弁慶度を求める「ネット弁慶診断」アプリケーションについてもデモを行った。

この研究はどのような人がどのようにしてリアル上とネット上の言動を変化させてしまうのか、ネット上でのコミュニケーションが人々の意識をどのように変えるのか、ということについて知るのが最終的な目的であるが、今学会では人間の感性を尺度とする評価手法について他の研究者の発表・意見から刺激を受けることで、今後の実験方法・評価手法に活かすことを目的とした。

### 3. 活動の成果

活動により、多くの研究者から様々な意見を得た。その上で特に重要と考えた意見を今後の研究課題とし、活動の成果として報告する。

#### ①診断結果の活用方法

ネット弁慶診断のアプリケーションについて、この診断結果をどうコミュニケーションの活性化につなげていくのか、という意見があった。これに対

して、ネット弁慶度を同じくする者同士のマッチングサービスや、よりネット上のコミュニケーションを楽しめるよう誘導するコンテンツが必要であると考えることができた。また、これを商業活動とつなげ、ネット弁慶の活発さを広告宣伝に活かす、といった意見もあった。

#### ②診断の分析方法

ネット弁慶診断アプリケーションでは、現在 Twitter データのいくつかを用いて診断を行うシステムとなっている。これについて、診断条件として被験者の年代と性別、またよく使う SNS の種類、PC やスマートフォンといったどの端末から SNS を利用するか、といった質問を加えたらどうかという意見があった。これらについては、診断を被験者にしてもらうとともにこれらの設問を入れたアンケート調査を行いたいと考える。また、ツイートの内容についても調査するべきという意見があり、こちらも取り入れていきたいと考える。

#### ③ネット弁慶の定義

今研究では、ネット弁慶の定義として「ネット上でのコミュニケーションは活発であるのにリアル上でのコミュニケーションがそれに比べ少ない人々」としているが、それだけではなくより細かな定義を行うべきだという意見があった。そのためには、ネット上の内向性だけでなく、リアル上でどれほど外向的なのかといった調査、リアル上でのコミュニケーションがどのように行われているかといった調査が必要であると考えられる。これについては、データ分析ではなくインタビュー調査などの質的調査によって考察していきたい。

#### 4. 今後に向けて

今後は上記活動の成果を活かし、新たな調査や分析手法を取り入れた上で卒業論文の執筆に取り組む。また、ネット弁慶診断を実際に使えるサービスとしてリリースしていくことも検討していく。

#### 5. 謝辞

本シンポジウムの参加にあたり、資金面でのご支援をいただいた湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます。